

(1) 中目黒駅周辺地区基本構想(案)

ア 地区の現状と課題

中目黒駅周辺では、目黒区総合庁舎の開設、東京共済病院の開設、上目黒2丁目再開発事業の竣工など、大規模な整備事業が進捗し、人の流れも大きく変化してきている。今後さらに1丁目地区での市街地再開発事業や山手通りの拡幅整備事業などが引き続き行われる予定である。

ア) 現況調査



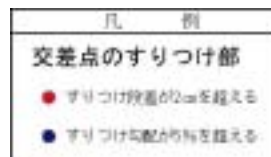
<道路形状>

- 山手通りと駒沢通りでマウンドアップ方式の歩道が確保されている。
- 目黒川に沿う道路は、歩車共存型のコミュニティ道路整備または歩行者専用道路として整備がされている。
- これ以外の道路の多くは、歩車分離されていない区画道路である。



<歩道：すりつけ段差・すりつけ勾配>

- 交差点でのすりつけ段差が2 cm を超える箇所は、山手通りの上下区間、駒沢通りの下り区間に多く見られる。
- すりつけ勾配が、5 %を超える箇所は駅北側に多い





＜歩道：横断勾配＞

- ・横断勾配の基準を超える箇所は、山手通りの駅北側区間に多い。



イ) 懇談会・ヒアリング等により指摘された問題点とその対応方針

・障害者団体、高齢者団体、商店街連合会へのヒアリング、アンケート、および地区住民を対象として開催した懇談会で指摘された、中目黒駅周辺地区の問題点を整理する。

項目	関連意見	意見への対応方針
●全体	・行政、警察と一緒に議論したい ・障害者等の意見が優先されるように ・実体験に基づいた問題把握が必要、体験者の意見が重要 ・社会福祉法人盲人会連合会より意見書提出あり ・視覚障害者以外の障害者の方の意見も聞いて欲しい ・設計の専門の方にも入って欲しい	・懇談会意見を踏まえ、特定事業の具体化検討を事業計画段階で進めるとともに、体験調査や事業全体の効果、評価手法を導入する。
●中目黒駅高架下 ○歩道環境改善 ○駅周りトイレ環境改善	・中目黒駅（ラッチ外）は狭い ・渋谷側にバス停があり横断歩道で渡りきれないので横断歩道外で渡っている（目黒高校の生徒がたくさん渡る）是非拡幅して欲しい ・S39 から渋谷側歩道上にフェンスで囲まれたスペースがありゴミ置き場になる ・ガード下の横断歩道は危険なので、失くす方向であった。また、ライフ横の横断歩道もなかった。これまでの経緯からすると、必要がなくなっている。上3歩道橋は直近に横断歩道がある ・駅にエレベーターが設置され良かった ・駅の障害者トイレが裏にある ・駅外の公衆トイレが無くなったが GT の中にスロープ付トイレが設置された	・高架下での歩行環境の改善について特定事業として取り上げる。美感、利便性の向上など関連項目については、今後関係部署へ働きかけ、全体的なレベルアップを目指す。
●菅刈公園周り ○アプローチ部歩行環境改善	・菅刈公園へ向かうアプローチ道路（目黒川の一本北側の道）が危険。坂が多	・特定事業として交通規制を含めた歩道確保の検討を行う。

	い。抜け道になっている。安全確保を求む ・山手通りから菅刈公園に入るところは狭い歩道しかなく、車椅子のすれ違い、介助の人、障害者の人が通れない ・菅刈公園へ渡る横断歩道が無く、危険な個所になっている	
●山手通り拡幅部 ○拡幅伴う横断歩道安全性確保 ○放置自転車対策 ○自転車専用レーン設置 ○高架下横断歩道と上三歩道橋の整理 ○バス停部の改善	・拡幅によりあさひ銀行前、高架下の横断歩道は1回の青信号で障害者は渡り切れない、安全島のような場所が必要 ・青信号延長ボタンが分かり難い、存在を知らなかった ・山手通り拡幅で歩道舗装はどうなるか ・拡幅に合わせて放置をなくすルール作りをソフト対策と合わせて進めてほしい ・山手通りを拡幅する際には放置自転車対策と一体である必要がある。日常の管理（使い方、使われ方）が重要 ・歩道部の駐輪スペース、自転車専用レーン等は歩道内でどのように処理するのか ・市街地再開発に合わせて上3歩道橋にエレベーターが設置されるのか？ ・上3歩道橋はなくしたほうが良い。(架け替えにあわせて) ・小学生の安全のために設置された歩道橋がやわた歩道橋と小学校前の歩道橋 ・歩道橋が鉄骨で作られたのは、必要に応じて撤去できるようにするためと聞いている。 ・バス停部の歩道を嵩上げするとバスのステップが近くなる ・バス停にバスがぴったり停車できるようにする必要がある、路上駐車がそれを妨げている場合がある	・都市計画道路事業に整合させて特定事業を位置づけ、信号の改善、歩道の確保等を検討する。 ・放置自転車については、区全体の対策の中で検討する。また、行政だけでなく、地元との協力による対策が重要である。 ・駅付近で山手通り拡幅残地等を利用し駐輪スペースの確保を検討する ・山手通り全体としての方針との整合が必要であり、東京都との協議を行う。 ・都市計画道路の整備にあわせ、地元意見の集約をさらに行う。 ・ ・特定事業にバス停の改良を含めさらに検討する。
●総合庁舎周り ○誘導サイン類の体系的設置	・総合庁舎前にバス停が設置されるので音声信号を設置して欲しい、またタクシー乗り場も	・関係事業者に働きかける。
●放置自転車 ○総合的放置自転車対策	・歩道を走る自転車が危ない。 ・自転車専用道を作ってほしい。 ・放置自転車等の取締りが必要。歩道を自転車走るのは交通違反ではないか？ ・上3歩道橋西銀座商店街の放置自転車がGTタワーの駐輪所ができて減らない。放置自転車対策が進んでいない。 ・放置自転車、違法駐車は防災上も問題、安全確保を求む。 ・放置自転車によって高齢者も安心し	・放置自転車については、区全体の対策の中で検討する。(駅付近で拡幅残地等を利用し駐輪スペースの確保を検討する) ・自転車レーン、歩道内駐輪歩道構造については、山手通り全体での位置づけも踏まえ引き続き検討する。

○放置自転車対策に資する付属物の構造改善	て歩けない。(目黒区緑道など)無法地帯になってしまっている。その対策のほうが重要ではないか。 ・放置自転車が区内で2番目に多い ・放置自転車がなければ歩道の拡幅がいらぬ部分もある ・自転車の走る場所を確認して欲しい ・柵が自転車をチェーンで停められるような構造では自転車が放置されてしまう。	
●舗装点字ブロック ○誘導サイン類の体系的設置	・点字ブロックがない ・弱視の方にわかりやすい色は黄色で有る。レンガブロック等では色の違いが分かり難い ・路面に貼ってある点字ブロック(シール)は雨の時に滑る、埋め込み型など滑りにくい規格を求む ・点字ブロックを特定経路に連続して設置して欲しい。	・特定経路については黄色ブロックの敷設を基本として対応する。
●段差解消 ○既存歩道の改善 ○すりつけ段差2cmへの対応(車椅子と視覚障害者間の調整) ○スムーズ歩道設置上の留意点	・歩道橋と車道面の高さを同じにできないか。(江戸川区の事例有「朝日新聞 11/21(木)ベビーカーでわかる」)歩道の切り下げが多い。 ・歩道内で勾配が急な所があるので改善を求める。 ・車椅子では2cmの段差は越えづらい ・スムーズ歩道は車の運転者にとって難しいのではないかな ・スムーズ歩道にした場合、歩道と車道の境界がわかりづらくなるので判別がつくようにして欲しい ・2cmという全国基準に合わせなくても山手通りに合った段差解消の方法を採用して欲しい、車椅子と視覚障害者の方の意見調整を求む	・特定経路については、すりつけの改善やスムーズ歩道を採用し改善する。地形的にやむを得ないケースを除き円滑化基準に従って改善を図る。 ・歩道と車道の2cm段差については、車いすと視覚障害者意見の双方を尊重しつつ具体案を検討する。(面取り縁石や切り込みなど新構造がありうる)
バス停 ○誘導サイン類の体系的設置	・バス停に音声案内を導入して欲しい(特に東急バス)	・特定事業に含め関係事業者と協議を進める。
●その他 ○小休止用のベンチ設置	・目黒川両側道路は、日曜祝祭日車両規制がある筈だが、実際は通行車両がある。目黒川沿い休日道路規制はあるのか? ・駒沢通り、目黒川交差点部の横断歩道橋にエレベーター等が欲しい、検討対象に加えて欲しい ・歩道部に高齢者等が休めるベンチ等が欲しい、座れるようなストリートファニチャーの工夫を ・山手通り西側沿道部分も重点整備区域に入れて欲しい(郵便局や診療所がある)	・違反がなくなるよう関係者とともに考えていく。 ・主要経路と位置づけ対応を図る。 ・区域に含めて対応していく。

イ 基本方針

- ・駅を中心に特定経路によるバリアフリー空間の骨格を形成し、主要経路を順次ネットワーク化しながらバリアフリー環境の実現を図る。
- ・再開発事業、総合庁舎整備など駅周辺の大規模開発整備が進められていることから、これらの開発整備に合わせて歩行者空間のバリアフリー化及び歩行環境整備を行う。
- ・北部の菅刈公園周辺には、特別養護老人ホームや住区センターが集積していることからこの一帯を拠点的なゾーンとして駅との連絡を図る。

特定施設

- ・目黒区総合庁舎、菅刈公園・西郷山公園周辺、東京共済病院・中目黒公園周辺

特定経路

- ・中目黒駅から山手通り、駒沢通りを経由して総合庁舎へ到る経路
- ・中目黒駅から山手通り、舟入り場を経由して共済病院・中目黒公園に到る経路
- ・中目黒駅から山手通り、西郷山通りを経由して菅刈公園・西郷山公園に到る経路

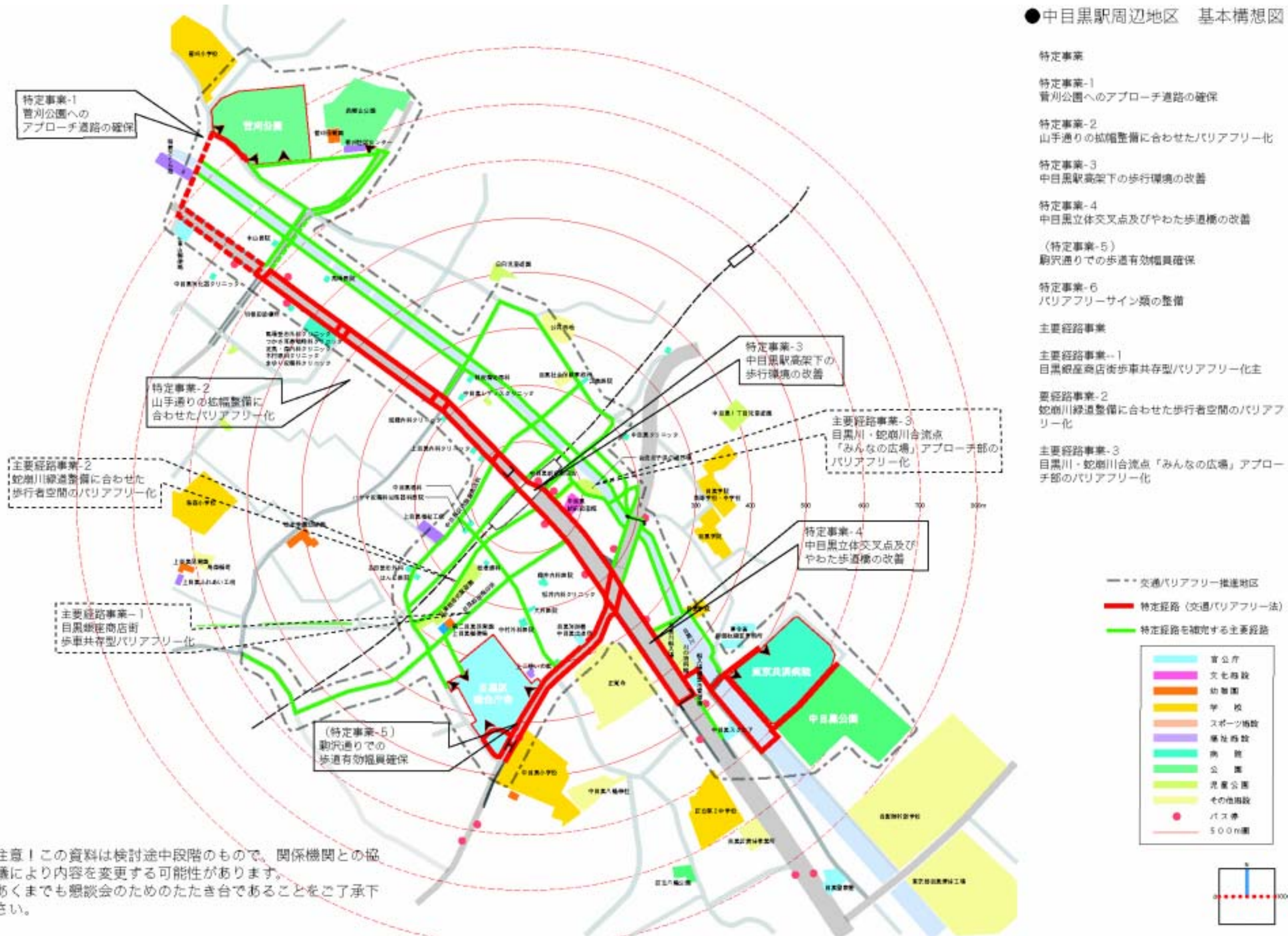
主要施設

- ・菅刈住区センター、中目黒駅前図書館、目黒社会保険事務所、中目黒スクエア、川の資料館、特別養護老人ホームさくら苑、中目黒駅前書店街、中目黒銀座商店街、中目黒駅西銀座商店街

主要経路

- ・日常的に利用されている商店街に含まれる経路
- ・特定経路同士をネットワークし、駅を中心として回遊できる経路
- ・特に高齢者や障害者が、日常的に利用する公共的施設へ到る主要な経路

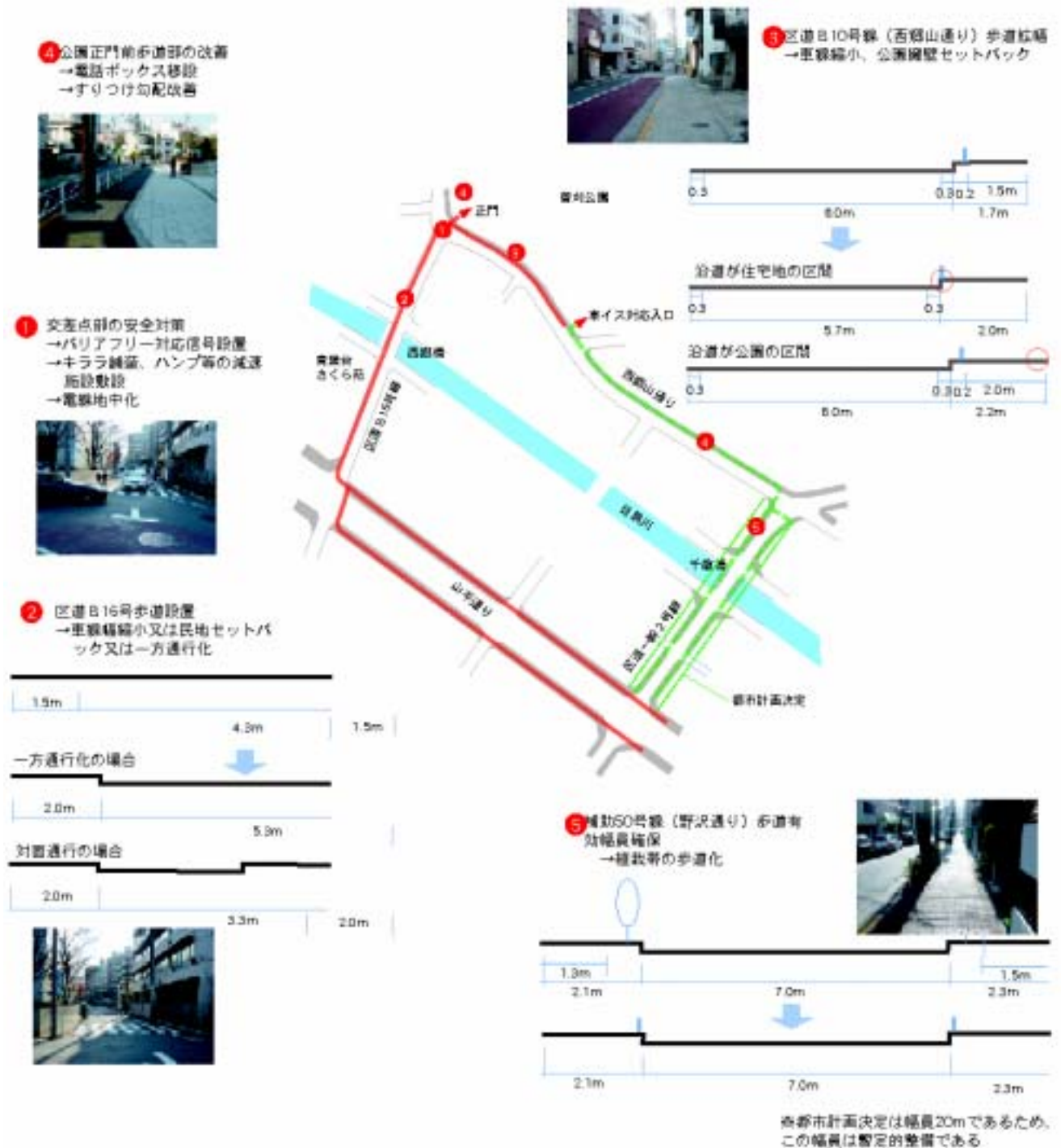
●中目黒駅周辺地区 基本構想図(案)



ウ 特定事業の設定

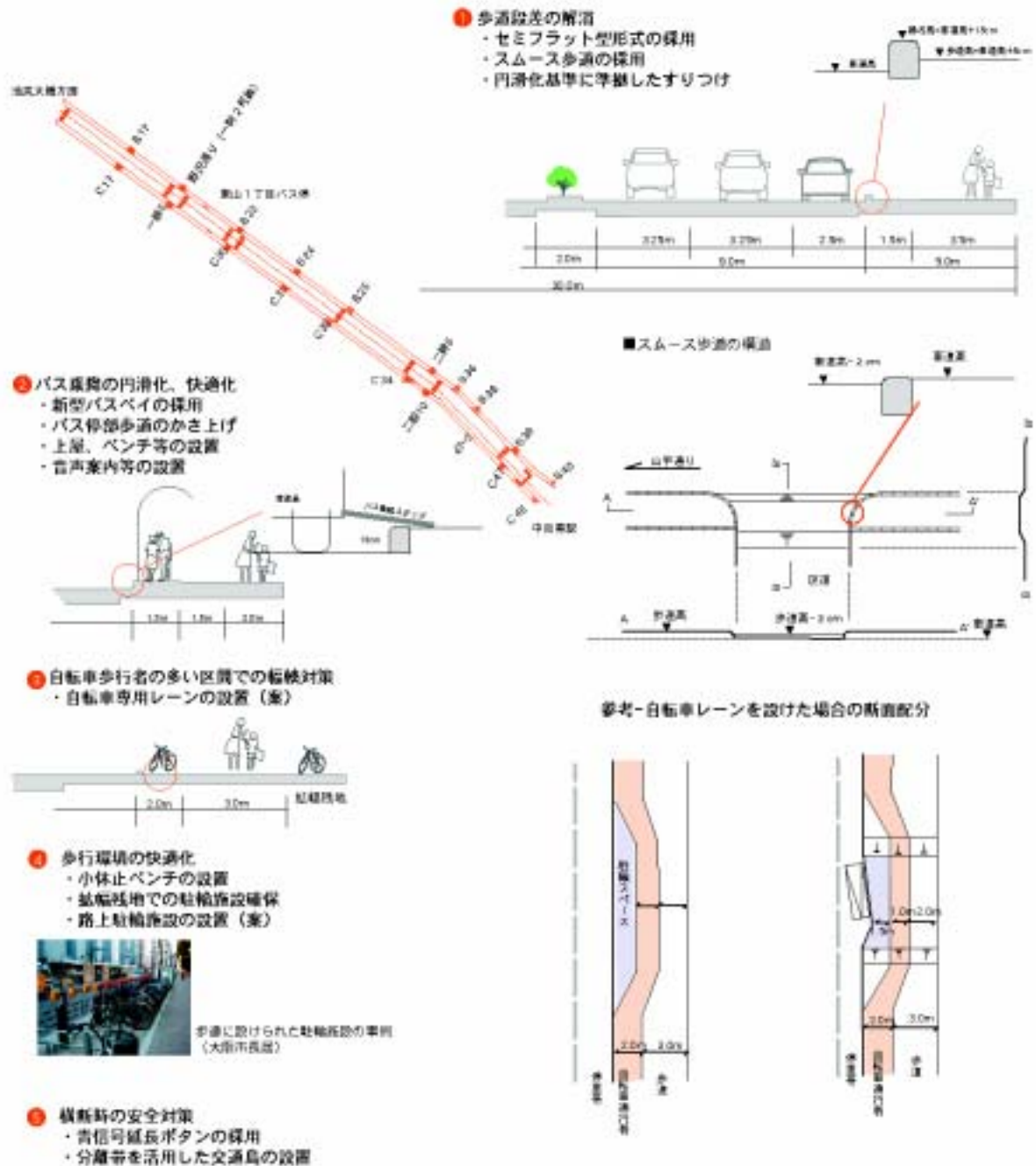
特定事業1 菅刈公園へのアプローチ道路の確保

- ・山手通りから菅刈公園に至る区道B16号線は、交通量が多いが歩車分離が行われておらず危険である。また、菅刈公園正門前の交差点は西郷山通りのカーブ途中にあり見通しが悪い。これらの課題に対して歩行者の交通安全性を確保しつつバリアフリー化対策を行う。



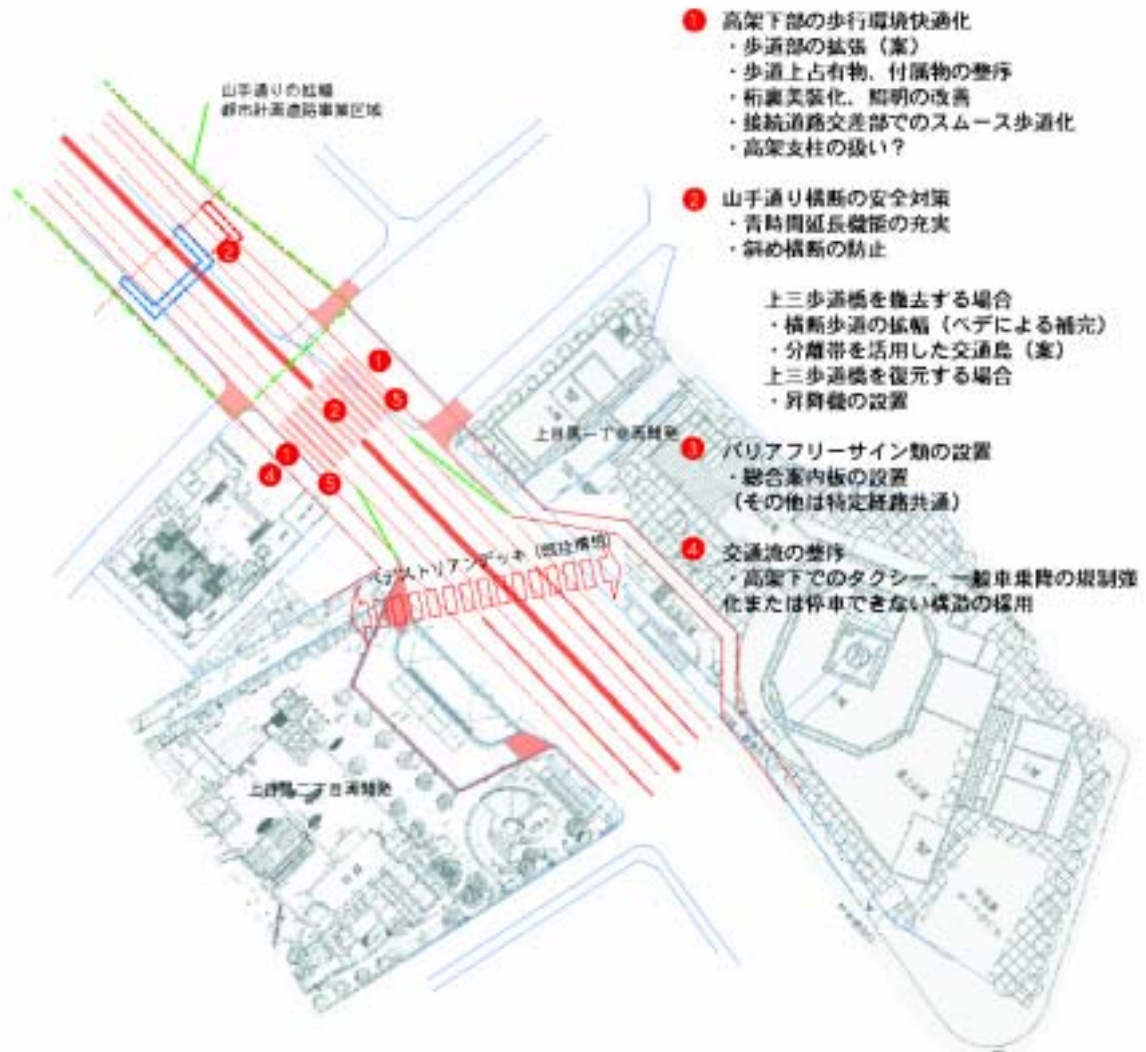
特定事業-2 山手通りの拡幅整備に合わせバリアフリー化を行う

- ・山手通りの中目黒駅以北の区間は、幅員 30mで都市計画決定されており、拡幅事業が予定されている。拡幅整備に合わせて歩行空間の改善を図る。



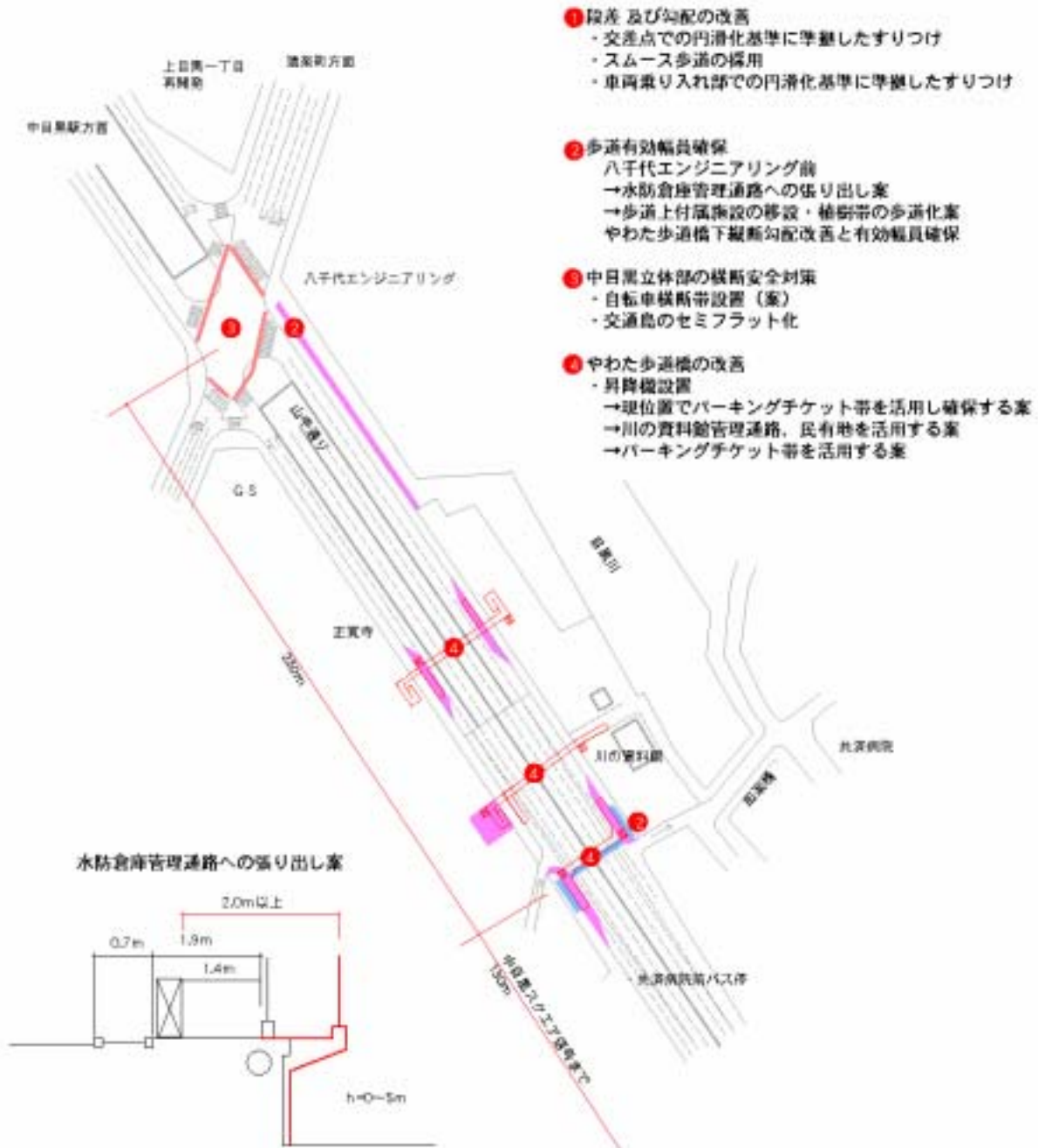
特定事業-3 中目黒駅高架下の歩行環境の改善

- ・山手通りの拡幅事業に伴い、駅高架下についても関連整備が必要となることから、拡幅事業に合わせて、高架下歩行環境の改善を図る。



特定事業-4 中目黒立体交差点およびやわた歩道橋の改善

- ・中目黒立体交差点は、朝夕のピーク時には通勤歩行者、自転車が多く輻輳している。また、山手通りを横断する島部分は勾配がきつく車いす等での横断がしにくいいため、改善を図る。また、交差点北東側の歩道有効幅が狭く、有効幅員の確保を行う。
- ・やわた歩道橋部分では、階段により歩道の有効幅員が確保されていないため、改善について検討を行う必要がある。



特定事業-5 駒沢通りでの歩道有効幅員確保

- ・山手通りから総合庁舎に向かう歩道の一部は、有効幅員が確保されていないことから、総合庁舎の整備に合わせて改善を行う。

特定事業-6 バリアフリーサイン類の整備

- ・総合案内サイン施設の整備
- ・特定経路での誘導サイン施